

---

空色days.

和茶

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

空色days .

### 【コード】

N6865P

### 【作者名】

和茶

### 【あらすじ】

のんびりでゆったりとした学校恋愛事情。基本的にぬるいギャグで、たまに切甘と暗も。

## キラリ、青春

私がやると、ただの気持ち悪い汗が、彼がやると美しく輝く。  
ああ、タオルを使う仕草も素敵。髪が風に靡いて、太陽をバツクに  
只でさえ輝いている彼は輝きを増して。

ああ、私はもう貴方の虜です。

キラリ、青春

「おい琉奈ー。行くぞお」

「ちよつと待って。加藤くんが走り終わるまで」

「じゃあ先に行ってるよー。くれぐれも遅刻しないようにね」

「んー」

私の想い人こと加藤くんは陸上部のエースである。エースなだけあってやっぱり走ってる姿も様になる。いや、他の人も様になってるけど。なんかこう…輝いているというか。眩しいんだよ、色々と。窓からもう日常となりつつある加藤くん観察を続けていたら、チャイムが鳴った。

……………。

……あれ？  
教室誰も居ない……？

……。

「ああああ！！移動教室だったああ！！」

しかも音楽。

音楽の授業に遅れて行ったりしたら私の身がどうなるかわからない。なんとも素晴らしい事に今は予鈴である。つまりあと五分ある。急いで準備をして、教室を出るときちら、と校庭を見れば陸上部も終わったのか、もう誰も居なかった。

せえせえ言いながら走り続けてようやく音楽室が見えてきた。近道を通ろうとしたら転んだり教室間違えたり、急がばまわれとはこの事だろう。

でも、間違えて一年生の教室入っちゃったのは恥ずかしかったなあ……。

「はぁ……はぁ……あ！」

音楽室が見えた。あと二十メートル。この勝負、私がもらった。そう思った時、曲がり角で突然誰か曲がってきた。

「うええ!!!?」

全速力で走っていた私は突然止まることが出来ずに、目の前に現れた大きな人と見事に激突した。こんな所でラブコメなんか要らないよ。時とタイミング考えてよ。神様の馬鹿野郎。

「痛っ痛っ痛…『キーンコーンカーンコーン』 ああああああ!!!」

「わ、悪い大丈夫か!?!」

あわあわと焦る声に内心舌打ちをする。

大丈夫な訳ねえだろお陰様でこちらら音楽の授業に遅れるなんていう自殺行為をしてしま…った…? 顔を上げて、思考が止まった。

「……………え、あ、あの……………ええ!?!」

「え?えつと、大丈夫か?悪いな、オレがいきなり曲がったから」

「いえいえわわわ私が走っていたからです!」

なんと、目の前に居たのは加藤くんだったのだ。神様、馬鹿野郎なんて言っでごめんなさい。神様万歳。

「か、加藤くんこそなんで此処に?」

「今日の音楽、二組と合同なんだ。君は二組だよね?」

ななななんと!四組と合同授業だったなんて知らなかった!だってらもう授業が始まる三十分前には音楽室で待機してたのに!

……………あれ?

「はい。てことはもしかして、加藤くんも遅刻?」

「……………あはは」

私はともかく、加藤くんはきつと部活で遅れたんだろうし大丈夫なんじゃないかな…？

「どうする？」

「どうすると言われても……………」

どうしようもない。今から音楽室に入る無謀な勇気なんて生憎持ち合わせていないし、かといってサボるのも……………あまり、良いことではないし。

すると、加藤くんが「あ、」顔を上げた。

「サボるか」

……………なんですと？

「さ、さぼ…？」

「ああ。だつて今から音楽室に行ったりしたら全殺しは確定だろ？死ぬかもしれない」

「いや既に死んでますよそれだと」

「ん？ああそうか。まあいいやとにかく行くこつぜ！」

ぐいと手を引つ張られて連れていかれる。ああああああ！！！！かかかか加藤くんが私の手を！掴んでいる！！！！？

サボるのは初めてだし、ちょっと怖いけど、（音楽だし）幸せだからいいか。

なんて、階段を上っていく背中を見ながら思った。

ガンと何かを蹴る音が聞こえて、前を見ると大空が広がっていた。

「着いたぞ！」

「お、屋上！？」

こん、と足に何かがあたり下を見ると『立ち入り禁止』……………。

「加藤くん、此処立ち入り禁止……………」

「ああ、そっだよ」

さいですか。ご存知だった様で。

にしても普段立ち入り禁止の屋上に来たの実は初めてだったりする。いや勿論今も立ち入り禁止だけど。

「……………気持ち良いね」

「だろ？」

そう言つて、にかつと笑う彼に私も笑った。

あんなにずっと見てたのに、知らないことばかりだ。

いつもみたいじゃなくて、こんなに男の子っぽく笑う所とか、実は校則破つてたりする所とか、意外にちよつと強引な所とか、

知らないこと、ばかりだ。

「あ、」

「？どうかしたの？」

「そっいえばオレ君の名前知らねえな。名前は？」

か、加藤くんに名乗れる日が来るなんて……………！！！！

夢のようだ、いや実は夢なのかも。夢でもいいから、覚めないで。

「結木、琉奈です」

「結木、な。オレは加藤晴太。よろしくな」

「うん、よろしくね！」

屋上の空は、眩しい透き通っていて、蒼かった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6865p/>

---

空色days.

2010年12月30日20時51分発行